

平成20年度 科学研究費補助金（特別推進研究）  
事後評価結果

研究課題名	興奮性シナプス伝達調節分子機構の生後発達変化	研究代表者名 (所属・職)	高橋 智幸 (同志社大学・生命医科学部・教授)
-------	------------------------	------------------	-------------------------

研究課題の総合的な評価

該当欄		評価基準
	A+	期待以上の研究の進展があった
○	A	期待どおり研究が進展した
	B	期待したほどではなかったが一応の進展があった
	C	十分な進展があったとは言い難い

評価意見

聴覚系巨大神経終末を用いた独自のモデル標本に精度の高い電気生理学的手法、イメージング技術や遺伝子・分子操作を組み合わせる独創的な方法論を展開し、神経伝達、特に伝達物質放出機構の基本メカニズムとその制御機構について大きく発展させた質の高い成果を挙げている。3年間の研究期間でシナプス伝達に係わるカルシウムチャンネルの生後発達スイッチや、シナプス小胞のエンドサイトーシス制御機構など特筆すべき新しい見知も数々発見しており、得られた成果は神経関連領域ばかりでなく、細胞分泌の研究領域など幅広い学問領域への貢献が期待できる。